

令和元年
菊川市議会の活動に関するアンケート調査
検証結果

菊川市議会の活動に関するアンケート結果と検証

菊川市議会では、平成21年2月に議会基本条例を制定し、「市民にわかりやすく開かれた議会運営」、「議会機能の強化」「身近で信頼される議会」を目指し活動して参りました。議会基本条例第22条に定める任期最終年に議会基本条例の目的が達成されているか検討するにあたり、市民の皆様から幅広いご意見を聴取するため、市内全域の18歳以上の2,000人にアンケート調査を実施いたしました。回答は、1,042件、52.1%の回収率でした。（前回平成28年にアンケートを実施しました。）

前回のアンケート結果の検証結果を受け、議会報告会の方式の変更、議会だよりの読んでもらえる為の工夫をはじめ、政策討論会の開催方法の改善、質疑の事前提出の徹底など、様々な試みを続けて参りました。その成果として、今回のアンケートでは、全般的によく知っている・少し知っているなどの数字はそれぞれ改善されてきています。しかしながら、知らない、わからないという回答が依然として多い点を課題として今後の取り組みを行っていかなくてはなりません。

そのために、議会基本条例で規定されたありたい議会に近づく「議会改革サイクル」、市民の役に立つために政策を提案、実現する「政策サイクル」を整え、「魅力ある議会とは何か」について市民と意見交換はもちろん議員間での意思統一を行うことで議会のあるべき姿の目標を再認識し、目標を達成するために各年齢層へ伝わる情報発信方法の再検討をし、議員間討議を充実させ、より市民が参加しやすい議会環境を整え「チーム議会」として、市民、事務局、議会の総戦力で議会経営を進めていく必要があります。

令和元年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会議員について】

項目	平成28年調査(2016)
結果	○議員の活動内容を知らない 40.2% ○議員に意見や要望を伝えたことがない 88.5% (伝えたことがある方で一番多いのは会ったときに伝えている。) ○議会での意思決定結果や議会運営等について、市民への説明責任が果たされていないと思う 25.1%
課題	◆議員各自の活動内容の周知不足。 ◆市民の意見や要望を広く聴く場等がより一層必要。
課題に対する解決策	☆議員が率先して地区の集まりなどに参加し、広く市民の声を聴く努力を行う。 ☆議員個々に報告会を開催する。 ☆議員個々の議会報告誌を発行する。 ☆議員個々の資質向上に努める。



解決策の取り組み状況	◎市のイベントや地区の集まりに参加している。 地元の自治会長会・班長会への出席。 参加しているが、意見交換はより一層行う必要がある。 ◎議員個々、会派、グループにより報告会を開催している議員もいる。 ◎議員個々、会派、グループにより広報誌を発行している議員もいる。 報告会、広報誌ともに 更に活発に行う必要がある。 ◎会派による研修参加や個々による異業種交流会・研修に参加している。 研修への参加は議員個々において差がある。
------------	---



項目	令和元年調査(2019)
結果	○議員の活動内容を知らない 40.2%→33.8% ○議員に意見や要望を伝えたことはない 88.5%→59.6% (伝えたことがある方で一番多いのは会ったときに伝えている 65.5%) ○議会での意思決定結果や議会運営等について、市民への説明責任が果たされていないと思う 25.1%→22.5% 知らない・伝えたことはない・説明責任が果たされていない それぞれ 減少している
課題	◆議員の活動内容を知らない方が減少しているが、まだ理解されていない方がいる。 市民の意見や要望を広く聴く場等がより一層必要。議員個々の情報発信不足。 ◆報告会開催を知らせる手段(ポスティングだけではダメ)が難しい。 ◆政治(市政)に関心のない市民へ情報を伝えることは非常に難しい。 3項目とも前回に比べて僅かだが減少している。しかし、まだまだ努力が必要。 議員各人の自覚が足りない。
課題に対する解決策	☆更に様々な場へ積極的に参加し、各世代の市民とのコミュニケーションに心がける。 ☆会派・グループ・個人で議会報告会・意見交換会を開催し、特定の団体に限定されない多くの市民意見の反映に積極的に取り組む。 ☆年齢層ごとに伝わる方法を検討することが必要 ・各議員インターネットを活用した議会報告を積極的に行う。 ホームページの作成、SNSを活用していく。 ・各議員、広報誌の発行・配布に努める。

令和元年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会について】

項目	平成28年調査(2016)
結果	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の意見が議会に全く反映されていない・わからない 49.6% ○議会の活動について全く評価しない・わからない 46.3% ○議会に対しどちらかといえば期待や信頼をしていない・期待や信頼をしていない 33.6% ○議会は監視機能を全く果たしていない・わからない 62.1% ○議会報告会に出席したことがない・行っていることを知らない 88.7% ○議会の情報があまり周知されていない・全く周知されていない 48.2% ○議会だより毎回読んでいます・時々読んでいます 75.3% ○映像配信を見たことがない・知らない 97.2%
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民に議会活動が理解されていない。 ◆市民の信頼が少なく評価されていない。 ◆情報発信不足 ◆議会報告会、議会だより、映像配信は周知不足。 ◆市民の求める議会報告会を検証する。
課題に対する解決策	<ul style="list-style-type: none"> ☆信頼を得るため、市民のために情報収集をして情報提供に取り組む。 ☆議会報告会、議会だより、映像配信、議員個々の活動等あらゆる手段を使って市民に情報発信を図る。 ☆議会報告会の趣旨の理解と徹底をし、内容方法について検討する。



解決策の取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎議会改革への取り組みを行っている。(議会基本条例の改定・議会改革推進委員会設置による機能強化、情報公開、傍聴規則の改定等市民参加推進の検討実施。) ◎議会だよりにて分かりやすい広報への取り組み、インタビューも時節にあったものを掲載し、読みたくなる誌面の工夫を継続している。 ◎議会報告会で行政と議会の役割を説明、委員会、政策討論会など活動、審議内容の報告をし、付箋の使用やワークショップを行い市民意見の出やすい環境を作っている。 ◎議会だよりの特集で様々な団体、組織と意見交換を行っている。読んでもらえる紙面の工夫を継続している。 ◎一般質問の事前掲載や議会報告会のまとめをホームページで発信するようになった。 ◎今何が課題かや、新規事業があるのかなどの市民への情報提供が不足している。(情報発信の不足、議員個々の認識不足) ◎議会のICT化を推進し、議会運営の向上を検討。
------------	--



項目	令和元年調査(2019)
結果	<p>全般的にマイナスの数字は減少しているが全体割合から見るとまだまだ数値が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の意見が議会に全く反映されていない・わからない 49.6%→48.7% ○議会の活動について全く評価しない・わからない 46.3%→40.9% ○議会に対しどちらかといえば期待や信頼をしていない・期待や信頼もしていない 33.6%→28.6% ○議会は監視機能を全く果たしていない・わからない 62.1%→58.7% ○議会報告会(議会ふれあいミーティング「語ら座あ」)に出席したことがない・行っていることを知らない 88.7%→85.5% ○議会の情報があまり周知されていない・全く周知されていない 48.2%→45.2% ○議会だより毎回読んでいます・時々読んでいます 75.3%→72.5% ○映像配信を見たことがない・知らない 97.2%→94.2%
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆市政に対する市民の関心が薄い。議会の見える化、わかる化の推進。(決定事項のみが伝わり、そこまでの過程が伝わっていない。審議・決定プロセスの透明化)。 ◆情報発信力の強化。 ◆市民意見を取り入れた政策等の立案形成。 ◆行政監視機能の強化。
課題に対する解決策	<ul style="list-style-type: none"> ◎議会オリジナルのホームページを立ち上げ、よりわかりやすく伝える工夫をする。 ◎市民が議会へ参加できる市民モニター制度の導入。(全般・議会だより) ◎議会報告が行政報告になりがち。課題が何かを伝え問題提起を行い意見を求める。 ◎議会報告会では、課題を抽出して議論できる手法を取る。 ◎議会報告会参加者に自治会役員や班長以外の幅広い市民の参加を検討する。 ◎ターゲットを絞った(学生、子育て世代、老人クラブ等)意見交換会の自主開催。 ◎予算決算審査のサイクルの確立。 ◎議会全体の活動を 目的・目標→実施状況→結果報告→反省のサイクルで行う。 ◎地域、年齢層等細かい分析の出来るアンケートを実施する。 ◎議会改革サイクルの確立。毎年・2年間・4年間 検証と改革。

令和元年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会議員の人数・報酬などについて】

項目	平成28年調査(2016)
結果	○人数は、適当である38.0%、多い24.0%、少ない2.9%、わからない35.1% ○報酬は、適当である34.4%、多い30.6%、少ない4.7%、わからない30.3% ○市民の意見を市政に反映するため特に力を入れてほしいことの第1位は、市民に魅力ある議会活動であることと、議員の資質向上である。 ○議員として働いてみたいかとの質問 全く思わない85.2%
課題	◆市民にとって魅力ある議会活動とは何か検証する必要。 ◆議員になりたい人が少ない。
課題に対する解決策	☆議員定数、報酬に対しては、毎任期ごとに議会内で検討していく。 ☆市民にとって議会の「魅力」とは何か検証し議会活動を明確化し、議員になりたい人を増加させる。



解決策の取り組み状況	◎議員定数・・・平成28年の市民アンケート及び議員アンケートの調査結果を基に議会運営委員会で調査研究し、定数を17名としている。 ◎議員報酬・・・議会基本条例に基づき議員報酬の試算案を提案し、また、検討事項として、若手議員確保のため、子育て手当や年齢による傾斜報酬方式などの提案書を議長、市長(報酬審議会)へ提出している。 ◎政務活動費・・・議員調査の結果、現状通りで良いとしている。
------------	--



項目	令和元年調査(2019)
結果	○人数は、適当である43.4%、多い17.0%、少ない2.1%、わからない35.9% ○報酬は、適当である34.8%、多い23.5%、少ない5.7%、わからない33.4% ○市民の意見を市政に反映するため特に力を入れてほしいことでは、市民に魅力ある議会活動20.9%、議員の資質向上20.2%、議員の活動情報の積極的な提供17.5% ○議員として働いてみたいかとの質問 全く思わない 85.2%→81.5%
課題	◆若者や女性議員を増やす仕組みができていない。 ◆定数、報酬ともに3割強の「わからない」との回答があるので、より説明が必要。 ◆審査等への議論を深めるためには議員定数が多い方が良い。(市民の理解が必要) ◆議員になるリスクと魅力両方の情報の提供不足。 ◆報酬が十分であればやってみてみたい方がいることから報酬の検討が必要。 ◆定数については人口規模・委員会審査の充実・他市との比較・市の財政状況からや市民意見の反映をする。 ◆政務活動費は増額する必要がある。
課題に対する解決策	◎議員定数と報酬について議員間で話し合う機会を設ける。(含 前回の申し入れ書) ◎議員の職務・活動内容実態調査と報酬算定基準の明確化。 ◎議員定数と報酬について事あるごとに市民へ情報提供を行い、議論出来る環境を整える。 ◎報酬が十分であればやってみてみたい方がいることから、報酬の増額の検討。 年齢による段階的報酬の取り入れや子育て手当等の検討を行う。 ◎地方議員の処遇改善を国に働きかける。立候補のための企業の支援制度の理解を得る。 ◎議会モニター制度を導入し、興味、活動理解を深め議員のなり手を確保する。 ◎若者、女性が市政に対し、興味を持てるよう意見交換の機会増、facebookやLINEなどSNSでの情報提供を進める。 ◎政務活動費増額へ向けてその必要性を調査し適当な金額を算出する。 ◎現職(引退)議員による後継候補者の発掘、育成。